

人間文化学部地域文化学科の履修ガイド

1. 人間文化学部の目的

人間文化学部は、人間形成及び人間によって歴史的に創出・形成されてきた文化について探究し、地域社会と連携した実践的で学術的な教育研究を推進します。

地域における文化の発見と継承、再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材を育成することを通して、関連する学術分野の進展と地域社会の発展に寄与することを目的とします。

2. 地域文化学科の教育研究上の目的

地域文化学科は、島根の文化をはじめ、日本及び海外の諸文化について、歴史や語学、文学などの様々な観点から教育研究を推進します。

地域の文化を基盤としてグローバルな視点で文化の諸相を捉えることのできる広い視野と寛容の精神を備え、人々と協働しながら文化の活性化に取り組む態度を身に付けた人材を育成することを通して、地域文化の継承と発展に寄与することを教育研究上の目的とします。

3. 地域文化学科の学位授与方針 (Diploma Policy)

地域文化学科では、学生のみなさんが卒業する時に以下のような力を身に付けていることを目標として、4年間の学びを組み立てています。

[知識・技能]

- 地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。
- 国際化に対応した語学力を身に付けている。
- 地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- 人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。
- 情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。
- 言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。

[関心・意欲・態度]

- 異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。
- 地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。
- 地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。

4. 地域文化学科の教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

(1) 「日本文化コース」「国際文化コース」の設定

地域文化学科では、地域文化、日本文化、国際文化をバランスよく体系的に学ぶことを重視しています。

1年次は、地域文化の基礎を学びながら自分の適性や関心を見定めます。

2年次に進む段階で、自分の適性や関心に応じて、日本文化（日本の文化・歴史、日本語、日本文学）を主として学ぶ「日本文化コース」、国際文化（世界の文化・歴史、英語、英米文学）を主として学ぶ「国際文化コース」のどちらかのコースを選択します。

2年次以降は、選択したコースの専門科目を主として履修しますが、それと同時に、他方のコースの専門科目についてもある程度は学ぶことを忘れないでください。具体的には、
[地域文化] から 25 単位以上、自らが選択した主として学ぶコースから 42 単位以上、もう一方のコースから 18 単位以上を取得します。

(2) 教育課程の編成

地域文化学科では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として①学部共通基礎科目、②学科基礎科目、③専門基幹科目、④専門科目の4つの科目区分を設けています。

①学部共通基礎科目

学部共通基礎科目には、[教養科目][しまねの文化][体育][外国語]の科目群を設けています。

[教養科目]では、人間が創り出した文化に関する人文科学領域、人間が創り出した社会の基本的な仕組みに関する社会科学領域、自然の事物・事象について科学的に理解する自然科学領域について、幅広く学ぶことにより、大学教育の基礎となる知識を修得します。

[しまねの文化]では、島根をフィールドに、地域が抱える課題や特色ある地域文化・地域資源について基礎的な知識を修得するとともに、地域での活動を通して誇りを持って未来に継承していく意義を理解します。

[体育]では、体を鍛え、人の身体の発達の仕組みを理解するとともに健康問題について学修します。

[外国語]では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得します。東アジアの「中国語」「韓国語」、東南アジアの「タイ語」「インドネシア語」から選択して学びます。

②学科基礎科目

学科基礎科目には、[ライフデザイン][言語リテラシー][情報リテラシー]の科目群を設けています。

[ライフデザイン]では、学生から社会人への円滑な移行を目指し、社会人として必要な知識・技能・態度を学ぶとともに、自己と職業への理解を深めます。

[言語リテラシー]では、地域文化学科における異文化理解の基礎となる英語力を高めます。

[情報リテラシー]では、基本的なコンピュータの知識と技能、情報技術を安全に利用するための知識を身に付けます。

③専門基幹科目

専門基幹科目は、[地域文化]及び[卒業研究]の科目区分で構成し、そのうち[地域文化]には、[入門][文化の発見][文化の体験][文化の活用]の科目群を置きます。

[入門]では、地域文化学科の学びの意義について理解し、4年間の指針を立てます。

[文化の発見]では、地域文化に対する理解を深め、文化の魅力を発見する力を養います。

[文化の体験]では、島根県内の文化を五感で感じ、体験的に理解を深めます。

[文化の活用]では、地域文化の活用について、観光まちづくりを手掛かりに学び、実践的な思考力・行動力を養います。

[卒業研究]では、指導教員の専門分野をベースとした演習(ゼミ)「地域文化プロジェクトⅠ」(3年次)、「地域文化プロジェクトⅡ」(4年次)を各々通年必修科目として学びます。

「地域文化プロジェクトⅠ」では、ゼミごとに地域文化に関わる共通テーマを設定し、学内演習(文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション)、フィールドワークを通して、卒業研究に必要な知識と調査方法を修得し、地域文化に主体的に関わる姿勢を身に付けます。

「地域文化プロジェクトⅡ」では、大学4年間の学びの集大成として、これまで学修した知見、「地域文化プロジェクトⅠ」において学修した専門分野の理論、研究アプローチ方法を用いて、地域文化に関わる卒業研究に取り組みます。

④専門科目

専門科目は、[日本文化]及び[国際文化]の科目区分で構成し、[日本文化]には、[日本の文化と歴史][日本語][日本の文学]の科目群を置き、[国際文化]には、[異文化の理解][英語とコミュニケーション][海外の文学]の科目群を置きます。

[日本の文化と歴史]では、自文化である日本の文化を見つめ直し、日本の歴史について専門的に学修することで、現代の日本と日本文化を相対化して考える能力を養います。

[日本語]では、日本語を様々な観点から学び、母語である日本語に対する理解を深めます。

[日本の文学]では、古代から現在に至る日本の文学及びそこに描かれた日本人の多様な生き方に対する理解を深めます。

[異文化の理解]では、欧米(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ)とアジア(東南アジア、東アジア)の社会、文化、歴史に関する基礎知識を身に付け、多面的に考える能力を養います。

[英語とコミュニケーション]では、英語の仕組みや規則を理解するための英語学の科目と、英語の4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を高度化するための実践的な英語科目を配置し、英語の運用能力を高めます。

[海外の文学]では、イギリス、アメリカ、中国の文学を通じて、多様な生き方の理解につなげます。

5. 資格・免許

地域文化学科では、専門科目に付随して、資格・免許科目を設けています。

希望する学生は、中学校教諭一種免許（国語・英語）及び高等学校教諭一種免許（国語・英語）、司書・司書教諭資格を取得することができます。

国語の免許取得を目指す学生は2年次より日本文化コースに進み、英語の免許取得を目指す学生は同じく2年次より国際文化コースに進むことがルールとして定められています。

したがって、国語と英語の免許を同時に取得することはできません。

司書・司書教諭資格は、日本文化コース・国際文化コースのいずれに進んでも取得は可能です。ただし、国語・英語の免許と司書資格を同時に取得することは、履修過多になりますので、原則として認めていません。一方、国語・英語の免許と司書教諭資格の両方を取得することは、教員になるうえでとても役に立ちますので、ぜひチャレンジしてください。

6. 卒業要件

地域文化学科の学生は、4年間で次の表に掲げる単位数を修得してください。

分 野	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
学部共通基礎科目	4単位	15単位	19単位
学科基礎科目	6単位	4単位	10単位
専門基幹科目	11単位	14単位	25単位
専門科目	4単位	56単位	60単位
自由選択科目単位 (上記科目群の中から選択)	—	10単位	10単位
合 計	25単位	99単位	124単位